



PILLAR

CLEAN SAFETY FRONTIER

CORPORATE PROFILE



株式会社 **PILLAR**

流体制御技術

豊かな地域社会の発展と、お客様のために

私たちは、事業環境の変化に迅速に対応し、
変化の先を見通す力と果敢な行動力で、市場と社会の発展を実現していきます。
そして、良き企業市民として地域社会の発展に貢献し、
お客様に喜ばれる製品を提供しつづけることを心がけています。



× 人



CONTENTS

- | | | |
|----------------------------------|----------------|------------|
| 1 私たちが大切にしていること | 5 私たちのミッション | 17 セグメント概要 |
| 2 目次 | 9 成長ストーリー | 21 外部評価・活動 |
| 3 トップメッセージ | 11 事業を支えるマザー工場 | 22 会社情報 |
| 4 社是／パーパス／
PILLAR CORE VALUES | 13 研究・開発 | |
| | 15 グループネットワーク | |



サステナブル社会で 必要とされつづける

代表取締役社長

岩波嘉信

当社は、1924年の創業以来、「流体を制御する技術」と「材料技術」を活用した当社製品・サービスを通して、CLEAN(環境)・SAFETY(安全)・FRONTIER(最先端技術への貢献)を軸に、グローバル社会の発展に寄与して参りました。当社の市場領域は多岐にわたり、半導体、エネルギー、化学、自動車、船舶、土木・建築、医療・医薬、電池などの分野に、独創的で高品質な製品を提供しております。

技術・製品・サービス・生産技術の開発にも力を入れ、半導体市場のさらなる技術革新やカーボンニュートラル社会の実現など、グローバル社会が発展していくなかで、必要とされる企業であり続け

るための挑戦をつづけています。

また、当社の企業活動全体がサステナブルな社会の実現に貢献できるよう、「SDGs」「ESG」の取り組みを強化しております。

社是である「品質第一 和衷協力 一歩研究」を行動指針として、企業価値向上とサステナブル社会への貢献をともに実現できる、さらに進化したPILLARを創造してまいります。

創業100周年を越えてもなお、変革を起こし、成長をしつづけながら、社会にとって必要不可欠な企業でありつづけることを目指します。

社 是

品質第一 和衷協力 一歩研究

パーパス

“社会を支える”未来を創る

CLEAN SAFETY FRONTIER

PILLAR CORE VALUES

Integrity	誠実	プロフェッショナルとして、高い倫理観を持ち誠実に行動する
Innovation	革新	イノベーションにチャレンジし、より良い未来社会へ貢献していく
Progress	改善・改革	改善・改革を積み重ね、本質的な進化を図っていく
Human Resources	人財	事業活動を通して、高い専門性やリーダーシップだけでなく、社会性も兼ね備えた人財を育む
Team	仲間	多様性のある仲間の知恵や能力により相乗効果が生み出されるチームを作る

グループ行動指針

「グループ行動指針」は、株式会社PILLAR及びそのグループ会社の役員及び従業員が日々の業務活動を行う中で、特に重要な行動指針となるべき内容について定めたものである。

社員はこの指針の実践を自らの重要な役割として、率先垂範する。

グループ行動指針の詳細は当社ウェブサイトをご覧ください

<https://www.pillar.co.jp/ja/about/philosophy/>





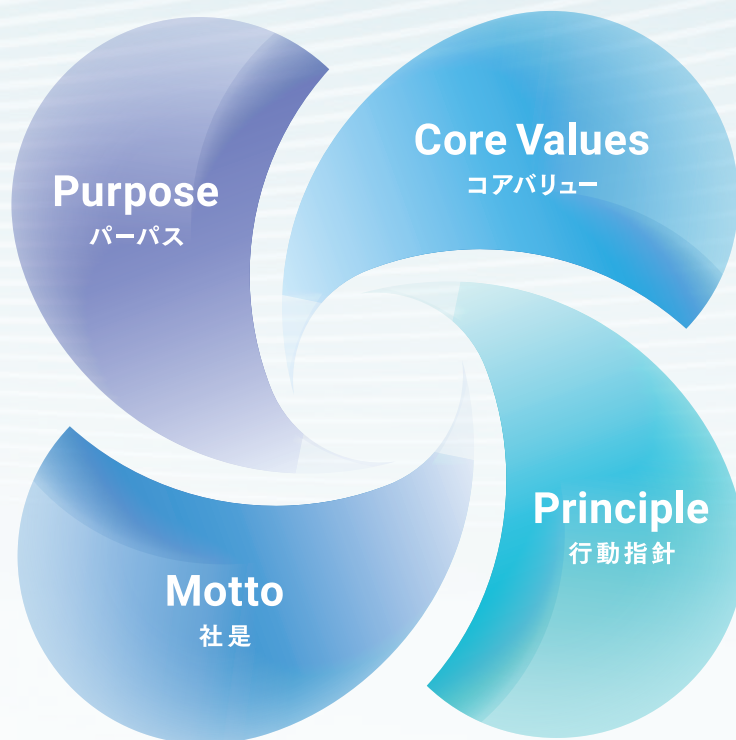
100周年を機に「PILLAR CORE VALUES」を策定

100周年という大きな節目に、PILLARグループの社員全員が大切にしている価値観として、「PILLAR CORE VALUES」を新たに策定しました。

これまでの「経営理念」に代えて、会社の姿勢と一人ひとりの価値観・行動のつながりを示しました。

『社是』『パーパス』『PILLAR CORE VALUES』『グループ行動指針』をリンクさせることで、持続可能な社会の実現に貢献する価値を創造していきます。

これからの100年に向けて
進化する姿勢。



100年にわたり
受け継がれた想い。

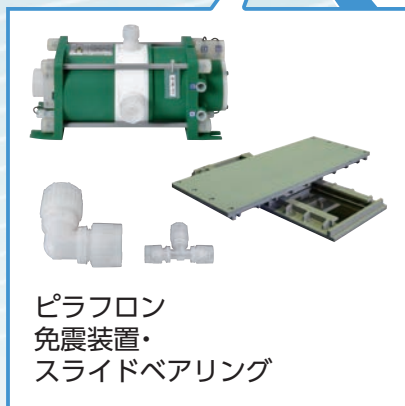
電子機器関連事業

40,475 百万円
69.1%



2023年度売上高

58,605 百万円



産業機器関連事業

18,093 百万円
30.9%

電子機器関連事業

ハイテク市場に特化しており、なかでも半導体、液晶、医療分野に注力しています。特に耐薬品性、耐熱性、クリーン性の高いふっ素樹脂製の継手やポンプなどは、多様な薬液にも影響されないため半導体基板（シリコンウエハー）の洗浄に用いられています。

産業機器関連事業

主に流体を移送する遠心ポンプなどの回転体において流体を制御するメカニカルシール製品、バルブのステム部分のシール材として使用するグランドパッキン製品、並びに配管と配管の間に設置するガスケット製品を扱っています。

あらゆる流体を制御して、 暮らしと環境の安心・安全に貢献します

当社は、水や油、危険な薬液・ガスなどの流体を制御する関連機器を設計・開発、製造するメーカーです。生活を営むために絶対に必要な場所で使用されており、地球環境保全や省資源、さらには私たちの生命や財産を守るために貢献しています。





5G基地局



半導体



上下水道



宇宙

電子機器関連事業(ふっ素樹脂関連製品)

化学的安定性、低摩擦係数、低誘電率など多くの特性を高レベルに併せ持つふっ素樹脂をさまざまな技術で製品化し、半導体・建築・通信などの市場に提供しています。

サーキュレーション製品 (継手・チューブ・ポンプ他)

半導体の微細化・集積化など高性能化に貢献

半導体や液晶の製造装置などの薬液配管部材として、安全性・クリーン度・配管サイズの適応性など多様なニーズにお応えしています。

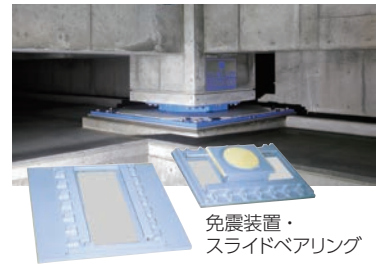


サーキュレーション

免震装置・スライドベアリング

地震の揺れから建物を守る

免震建物、屋根、連結橋などの支持部に加わる力を回転・すべり機構によって軽減・吸収し、建築物・構造物の耐震性・耐久性の向上に寄与しています。

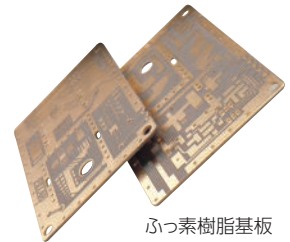


免震装置・スライドベアリング

ふっ素樹脂基板

高度な通信環境に貢献

高周波帯での優れた低電気損失特性により、5G/6Gのモバイル基地局等のアンテナ、データセンタ等の高速サーバ向け多層基板、自動車の衝突防止レーダといったミリ波・マイクロ波の機器性能・低消費電力化に貢献しています。



ふっ素樹脂基板

産業機器関連事業

エネルギー・石油精製・化学・自動車・船舶・医療・食品などのプラント・機器において多種多様な流体を制御するシール部品としてあらゆる産業を支えています。

グランドパッキン

暮らしの安全・安心に貢献

バルブのステム部やポンプの軸封部など、回転運動や往復運動する軸まわりからの内部流体の漏洩を防ぎます。

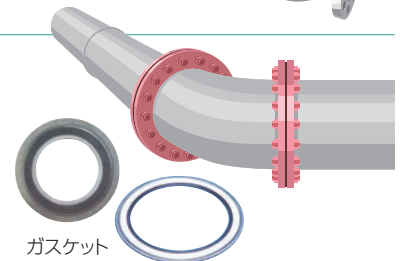


グランドパッキン

ガスケット

安全・安心な機器の使用に貢献

配管の接合部、機器の接合部、機器と配管との接合部など、静止している部品と部品の接合部を密封します。



ガスケット

メカニカルシール・回転機器用シール

安全・安心なプラント操業に貢献

ポンプ、攪拌機、コンプレッサー、ロータリージョイントなどさまざまな産業機器の軸封部からの内部流体の漏洩を防ぎます。



タンケンABCシール

ピラーPPGシール

これからの100年に向け、ワンチーム(One Team)

1924年の創業以来100年にわたり、成長する産業が求めるニーズに応え、さらに、新たな素材にいち早く注目し製品化することで、持続可能で豊かな社会の実現に貢献してきました。これからも固有の流体制御技術を進化させながら、独創的で高品質な製品・サービスを提供していきます。

1920~

Founding period

創業～生産体制の確立

創業者の岩波嘉重が、耐摩耗性の高い船舶用筒型パッキンの開発に成功。1924年、個人経営の「ピラーパッキン工場」をスタートさせました。1926年に工業用漏れ止めパッキンの本格的な生産を開始。1932年には自動車用及び船舶内燃機用のガスケットの生産を開始しました。1948年に「日本ピラー工業株式会社」を設立し、1951年に日本初のメカニカルシール(軸封装置)を開発し生産を開始します。1967年には、兵庫県三田市に三田工場が竣工しました。

- 1924 現在の神戸市灘区で日本ピラー工業所を設立
- 1926 大阪市淀川区に工場を新設し、工業用漏れ止めパッキンの本格的な生産を開始
- 1930 ピラーパッキンが当社初の実用新案特許登録
- 1932 ガスケットの生産を開始
- 1948 日本ピラー工業株式会社設立
- 1951 日本初のメカニカルシール(軸封装置)を開発、生産開始
- 1952 ふっ素樹脂製品(商品名ピラフロン)の生産を開始
- 1967 三田工場竣工。業界初のJIS・B・2404配管用うず巻形ガスケットJIS認定工場に
- 1970 新素材「炭化繊維」を開発、生産を開始
- 1974 創業50周年



創業者 岩波嘉重



日本初のメカニカルシールを開発、生産開始(1951年)



兵庫県三田市に三田工場竣工(1967年)

1980~

Global expansion

ブランド確立、世界進出へ

1980年に本社社屋を新築竣工し、翌年ISOシリーズメカニカルシールの生産を開始。時代のニーズに応じた新製品を次々と開発し、半導体製造装置向けふっ素樹脂の継手や膨張黒鉛編組パッキンの生産を立て続けに開始しました。1995年、ISO認証を取得し、顧客に信頼されるブランドを確立しました。

- 1980 本社社屋を新築竣工
- 1984 大阪証券取引所市場第二部特別指定銘柄
- 1989 福知山工場(現 福知山事業所)竣工
- 1995 大阪証券取引所市場第二部に指定替え



ISOシリーズ 攪拌機用メカニカルシールの生産を開始(1981年)



京都府福知山市に福知山工場(現 福知山事業所第1工場)竣工(1989年)

[売上高の推移]

[社会の出来事]

1980

1985 プラザ合意
1989 ベルリンの壁崩壊

1990

1991 バブル崩壊 ソ連崩壊
1993 欧州連合(EU)発足
1999 ユーロ誕生

とって取り組んでいきます

2000~

New businesses

現在の躍進につながる新事業の創出

2002年に世界初の画期的なシール機構「スーパー300タイプピラーフィッティング」を、翌年にはノンアスベスト化への早期切り替えに寄与する「#2603-EEEテクノブラック」の生産を開始。2012年から、半導体市場向け新型ロータリージョイントの生産を開始しています。

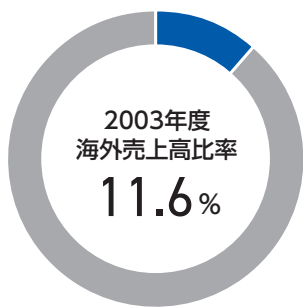
- 2001 東京証券取引所及び大阪証券取引所市場第一部に上場
- 2004 熊本県合志市に九州工場竣工
- 2012 半導体市場向け新型ロータリージョイントの生産開始
- 2017 大阪市西区に本社を移転



世界初の画期的なシール機構を実現した「スーパー300タイプピラーフィッティング」の生産を開始(2002年)



熊本県合志市に九州工場竣工(2004年)



2020~

Toward next 100 years

市場の変革を捉え、持続的な成長を目指す

次世代を担う製品の開発と半導体市場拡大に備え、2020年に新・三田工場が竣工し、さらなる企業価値の向上を目指して事業・組織の変革を続け、新素材・技術の開発に力を入れています。

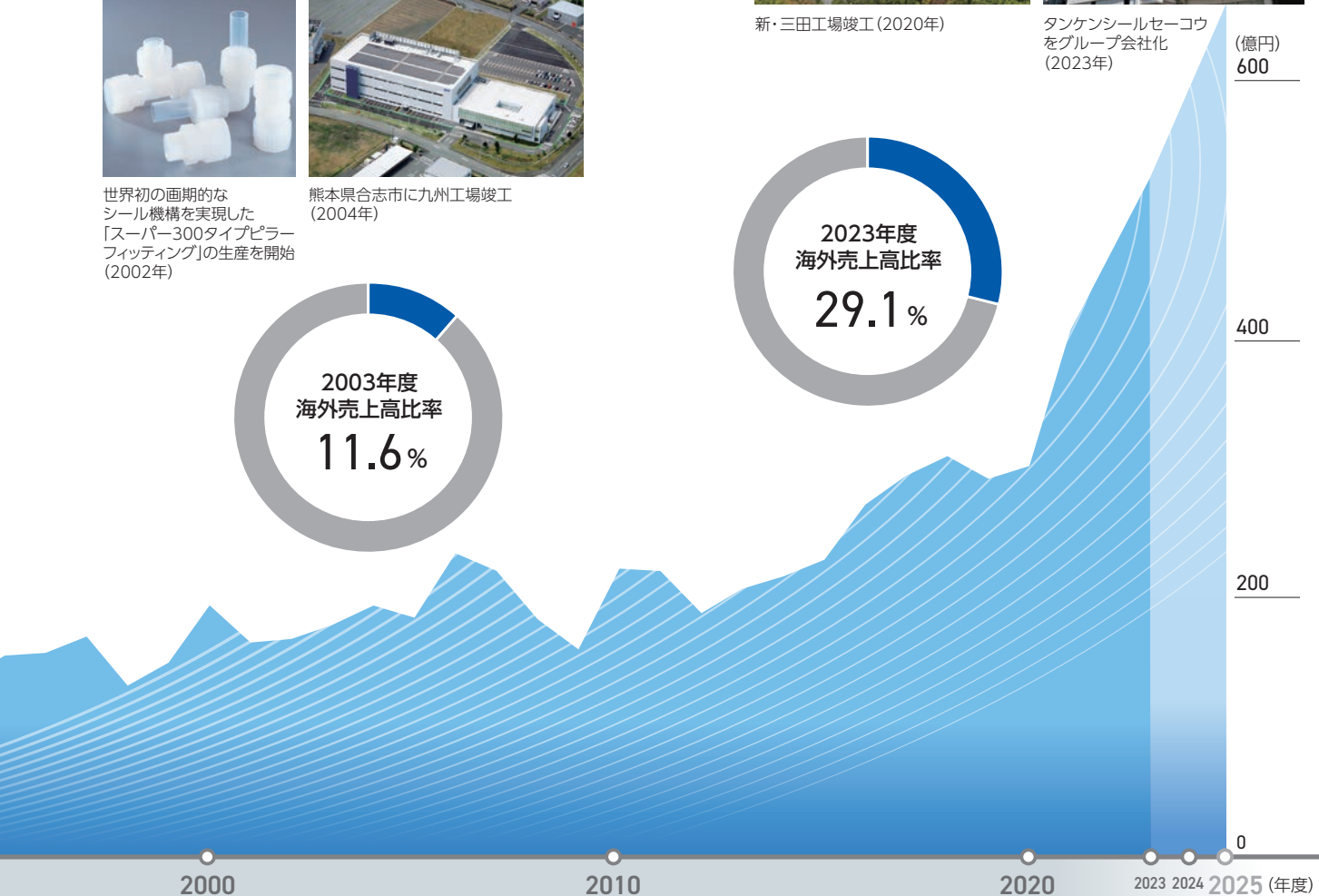
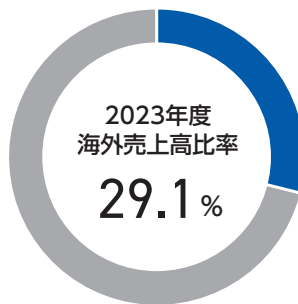
- 2022 東京証券取引所プライム市場に移行
- 2023 株式会社タンケンシールセーコウをグループ会社化
福知山事業所第2工場竣工
三田工場イノベーションセンター竣工
- 2024 創業100周年 社名をPILLARに変更



新・三田工場竣工(2020年)



タンケンシールセーコウをグループ会社化(2023年)



2005 京都議定書発効
2008 リーマン・ショック

2011 東日本大震災
2016 パリ協定発効

2020 英国・EU離脱
新型コロナウイルス感染拡大
2021 東京オリンピック・パラリンピック開催

2022 ロシア軍、ウクライナ侵攻
2023 パレスチナ・イスラエル紛争勃発
2024 能登半島地震発生

成長を支える製造資本

積極的な設備投資により技術・開発・生産体制を強化

三田工場のリニューアルや福知山事業所第2工場及び三田工場イノベーションセンターの建設により、生産体制の一新や増産体制構築のみならず、技術・開発部門の強化や研修施設の充実も図っています。また、新たな工場の建設においては環境に配慮した設計を取り入れ、CASBEEで高評価を取得しています。

流体制御技術を発信するマザー工場：三田工場

三田工場は、メカニカルシール、グランドパッキン、ガスケットなどの産業機器関連市場向けのシール製品の生産を担う他、研究・開発部門も設置した、マザー工場としての役割を有する当社の主力工場です。

2020年3月のリニューアル工事により最新鋭の工場に生まれ変わりました。



三田工場

コンセプト

- 合理的レイアウト、自動化・機械化、IT化による生産性の向上
- 労働環境、安全性、BCP実効性の向上
- 技術研修センター、分析センター、ショールームによる来訪者の信頼感・安心感の向上

三田工場イノベーションセンター

当社保有技術の複合・融合や産官学連携によって製品開発の強化やイノベーションを創出する拠点として、2023年10月に三田工場内にイノベーションセンターが竣工しました。

CASBEE(建築環境総合性能評価システム)Aランクを取得している他、屋上には自家消費型太陽光発電を設置しており、地球環境にも配慮した拠点です。

「製品開発フロア」「事務所フロア」「R&Dフロア」の3つのフロアで構成され、三田工場の多様な技術者を集結させることで総合知の創出と活用を図ります。



三田工場イノベーションセンター

コンセプト

- 革新的な製品をスピーディーに創出する場
- 新材料・新技術・新加工法を持続的に発展させる場

TOPICS

グリーンボンド発行について

環境改善効果のある事業に充当する資金の調達手段として、2023年12月に当社初のグリーンボンドを発行しました。

資金調達においても当社のESG経営の取り組みを発信し、ステークホルダーとのエンゲージメント強化に努め、持続可能な社会の実現を目指します。

名称	: 第1回無担保社債
社債の総額	: 100億円
資金用途	: ・福知山事業所第2工場(CASBEE Sランク取得)の建設資金 ・三田工場イノベーションセンター(CASBEE Aランク取得)の建設資金

■ 新たなキーテクノロジーの獲得

タンケンシールセーコウは、1955年の創業にあたってメカニカルシールの主要部品であるカーボンリングの国産化に成功した起源を有しています。以来、現在にいたるまでメカニカルシール及びカーボン技術をコア技術として発展してきました。

2023年4月に当社グループに加わったことは、新たなキーテクノロジーの獲得であり、これにより当社グループはメカニカルシールの心臓ともいべき摺動材のSiC(シリコンカーバイド)とカーボンの両方の材料技術を有し、内製化しているシールメーカーとなりました。

また、タンケンシールセーコウの自社開発製品である



タンケンシールセーコウ本社工場

ポーラスカーボンについては、グループ全体でのさらなる研究開発の推進、販路の拡大、販売チャンネル増などによる販売強化を図っていきます。

■ 福知山事業所第2工場

電子機器関連市場向け製品のさらなる需要拡大に対応すべく、2023年に9月に福知山事業所第2工場が竣工しました。

環境に配慮した設計を取り入れたことでCASBEE Sランクを取得している他、屋上には自家消費型太陽光発電の設置を計画しており、地球環境に配慮した工場でもあります。

また、同規模工場をさらに3棟建設可能な拡張可能エリアを有しており、今後機動的に増強する計画です。



福知山事業所第2工場

コンセプト

- 生産能力の大幅アップ(最大80%増)
- 新生産体制の構築によるコスト競争力の強化
- 顧客からの厳しい品質要求への対応
- 開放感のあるつくりで当社技術を“魅せる”工場

■ 大規模な工業用クリーンルーム

福知山事業所及び九州工場では、大規模な工業用クリーンルーム(空气中に浮遊する微粒子や微生物を限定されたレベル以下の清浄度に管理し、不純物やゴミを持ち込まないようにするための部屋)を導入しています。

当社では、クリーンルーム内の清浄度を監視し、クリーン度を常に適切なレベルに維持しています。

さらに福知山事業所第2工場では、天井から噴き出したクリーンエアを床から吸い込むダウンフロー方式を採用し、高いレベルのクリーン度を安定して得られる構造としています。今後も市場のクリーン化のニーズに応えていきます。



クリーンルーム

研究・開発

CLEAN・SAFETY・FRONTIERを軸に
コア技術の進化と基盤技術強化により
独自の価値を生み出し、
「社会を支える」未来を創る」を
実現します。



PILLARのコア技術、研究開発のコンセプト

当社は創業以来、「流体制御技術」と「材料開発」を活用し、市場のトレンドや社会課題の解決に適応する新たな価値を創出すべく、未知なる素材への探求や最新技術の研究・開発に努めています。

シール、材料工学、機械工学、射出成形、解析、分析、金型設計といった当社の基盤技術が「電子機器関連事業」と「産業機器関連事業」それぞれのコア技術の進化を支えています。

電子機器関連事業におけるコア技術は、樹脂シール、ふっ素樹脂の射出成形、微量分析、CAE(Computer Aided Engineering:コンピュータによって支援されたエンジニア

リング作業)であり、主にクリーン度要求の高い半導体市場向け製品の開発につながっています。産業機器関連事業におけるコア技術は、トライボロジー、材料配合、CAEであり、主に電力、石油化学市場向け製品の開発につながっています。

各事業で進化させたコア技術は、事業間の人財ローテーションにより共有化します。コア技術の組み合わせによる新たな価値の創造や、コア技術の進化を加速させる取り組みを推進しています。また、開発ポートフォリオを適切に見直すことにより研究開発と製品開発、新技術の獲得と既存技術の強化のバランスを見ており、短期だけではなく中長期も見据えた技術開発を進めています。

解析・試験装置の紹介

特許製品を数多く所有する当社では、製品を社会に送り出すまでに、実際の使用条件を想定したいくつもの実験を行っています。最新の検証技術によって支えられている研究・開発は、さらなる高みを目指して進化し続けています。



微量分析技術

半導体の微細化に伴うクリーン度要求の厳格化に対応するため、無機・有機ともに多角的に分析できる体制の構築を進めています。



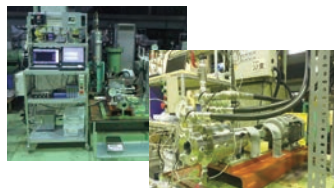
3D CADによる設計

基本的な構造解析と設計をシームレスに行い、よりスピーディーな製品の設計・提案につながっています。



半導体・液晶製造装置用実験設備

半導体市場で求められる過酷な使用条件における性能評価試験を行うために、高温・低温を繰り返すことができる熱サイクル試験装置を保有しています。



故障予知に向けたデータ収集・分析試験装置

メカニカルシールの故障予知技術の確立を目的として、故障発生モードも含めた運転条件下における、圧力・温度・トルク・振動などのデータを収集・分析するための試験装置です。



XPS(X線光電子分光装置)

材料の表面や深さ方向に対する原子や分子の結合状態を知ることができる分析装置です。本装置により水素市場向けシール製品のトライボロジー事象の解明に寄与します。



1000kN万能試験装置

製品・材料を高精度に荷重管理しつつ、シール・圧縮・引張試験ができる装置です。24時間連続運転が可能であり、経時変化を連続データで取得することができます。

産官学連携によるイノベーション

産官学連携によるシール技術向上の1つとして、グランドパッキンの最適摺動界面及び最適潤滑の研究に取り組んでいます。昨今のバルブ用グランドパッキンには従来以上の環境配慮が期待されており、海外規格に準拠する高いシール性能とバルブの操作性を阻害しない低摩擦力の両立はもとより、環境への影響を考慮した材料選定を行って

います。そこで、当社では情報科学の技術を用いて材料開発の効率化を図る「マテリアルズ・インフォマティクス(MI)」を活用しています。最適潤滑の網羅的探索や各種分析によるシール面の理想状態を研究し、市場要求の期待に応えられる製品開発を展開しています。



EDP®パッキン

半導体市場に向けた取り組み

半導体の微細化に伴い、パーティクル低減に対する要望は年々高くなっており、部品単体でクリーン度を高める必要があります。材料面では社内で構築している微量分析技術を活用してさらなるクリーン化の提案を行うとともに、配管デザインやポンプ接液部などの製品設計では、当社が保有する基礎データとCAEを併用し、問題点を開発初期段階で発見し解決するフロントローディング開発を推進し

ています。

また、サステナブルな取り組みとしてふっ素樹脂の3R (Reduce、Reuse、Recycle)を推進しており、半導体の要求仕様に応じた活用方法を検討しています。

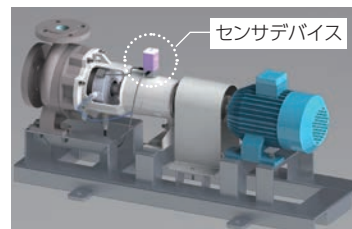


スーパー300タイプピラーフィッティング

ソリューションビジネスに向けた取り組み

製品の高機能化・多機能化のみならず、長年培ってきた流体制御技術の知見を新たな価値として市場に提供するため、メカニカルシールの状態監視サービスの構築に取り組んでいます。長年にわたり設計・開発に取り組んできた観点から、メカニカルシールの運転状態を可視化するセンサデバイスを開発し、お客様の生産設備のトラブルによる生産ロスのリスクを低減するとともに、CBM(状態基準保全)

による設備メンテナンスの最適化に貢献するサービスを提供します。今後は、状態監視の実機データを蓄積し、将来的には故障予知の実現に向けた技術確立に取り組んでいきます。



センサデバイスのポンプへの取付イメージ

TOPICS

材料開発におけるDX—粉体圧縮成形のフロントローディング—

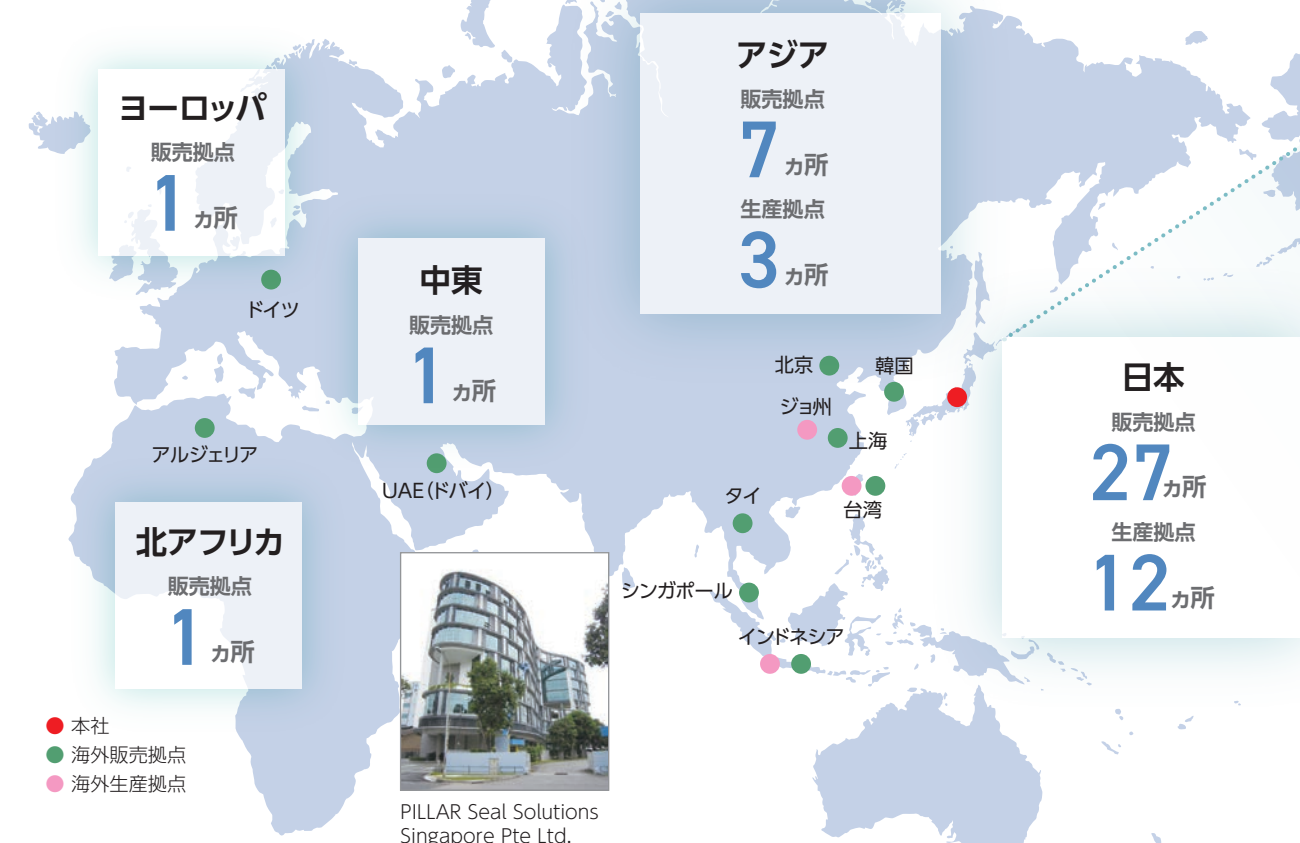


当社の主材料の1つとして粉体が挙げられます。粉体の変形は、液体とは異なり体積が変化してしまう塑性変形が一般的であるため、手戻りのない材料開発(フロントローディング)を実現する必要があります。そのためには、複雑な構成式や割れ・欠けの判定等の現象を正確に予測する解析技術が不可欠です。そこで、構成式中のパラメータを正確に同定するAIアルゴリズムと、それに対応する試験装置を構築しました。これにより、誤差5%未満で現象予測が可能となり、成形体の密度ムラの最小化や、使用材料の削減に効果を発揮しています。

DXにより、粉体の成形プロセスの机上検討を徹底することで、手戻りのない材料開発を実現しています。

世界をフィールドに、技術の架け橋となります

当社グループは、1980年、初の海外拠点としてKorea Pillar Packing Co., Ltd. (現 PILLAR Korea Co., Ltd.)を設立したのを皮切りに、グローバル化を推進してきました。現在では世界の11の国と地域で事業活動を展開しています。今後も海外拠点網を増強し、世界の人々の暮らしに役立つ高機能な製品を提供していきます。



■ 海外市場への展開の歴史

1980年	Korea Pillar Packing Co.,Ltd.(現 PILLAR Korea Co., Ltd.)を設立
1993年	東南アジアへの販売拠点としてNippon Pillar Singapore Pte Ltd.(現 PILLAR Seal Solutions Singapore Pte Ltd.)を設立
1999年	米国にNippon Pillar Corporation of America(現 PILLAR America Inc.)を設立
2001年	台湾にTaiwan Pillar Industry Co.,Ltd.(現 PILLAR Taiwan Co., Ltd.)を設立
2003年	中華人民共和国にSuzhou Pillar Industry Co.,Ltd.を設立
2007年	中華人民共和国にShanghai Pillar Trading Co., Ltd.(現 PILLAR Shanghai Co., Ltd.)を設立
2010年	アルジェリアにNippon Pillar Packing Co.,Ltd. Alger Liaison Office を設立
2015年	アラブ首長国連邦にNippon Pillar Middle East FZCO(現 PILLAR Middle East FZCO)を設立 タイ王国にNippon Pillar (Thailand) CO.,Ltd.(現 PILLAR Seal Solutions (Thailand) Co., Ltd.)を設立
2016年	メキシコ合衆国にNPK Fluid Control Systems Mexico S.A. de C.V.(現 PILLAR Seal Solutions Mexico S.A. de C.V.)を設立
2018年	ドイツ連邦共和国にNippon Pillar Europe GmbH(現 PILLAR Europe GmbH)を設立
2019年	インドネシア共和国にPT. Nippon Pillar Manufacturing Indonesia(現 PT. PILLAR Manufacturing Indonesia)とPT. Nippon Pillar Indonesia(現 PT. PILLAR Seal Solutions Indonesia)を設立 Nippon Pillar Corporation of America Houston Office(現 PILLAR America Inc. Houston Office)に生産拠点を併設
2020年	中華人民共和国にPillar Technology (Chuzhou) Co., Ltd.を設立
2021年	Pillar Technology (Chuzhou) Co.,Ltd.稼働開始
2023年	Shanghai Pillar Trading Co., Ltd.(現 PILLAR Shanghai Co., Ltd.) Beijing Office を開設



PILLAR America Inc.

アメリカ (フリーモント)
アメリカ (ヒューストン)
メキシコ

北米・中南米

販売拠点

2カ所

生産拠点

2カ所

海外拠点一覧

- PILLAR Taiwan Co., Ltd. Taipei Office
- PILLAR Taiwan Co., Ltd. Takao Factory
- PILLAR Shanghai Co., Ltd.
- PILLAR Shanghai Co., Ltd. Beijing Office
- Pillar Technology (Chuzhou) Co., Ltd.
- PILLAR Seal Solutions Singapore Pte Ltd.
- PT. PILLAR Seal Solutions Indonesia
- PT. PILLAR Manufacturing Indonesia
- PILLAR Seal Solutions (Thailand) Co., Ltd.
- PILLAR Korea Co., Ltd.
- PILLAR Middle East FZCO
- PILLAR Europe GmbH
- PILLAR America Inc. Houston Office
- PILLAR America Inc. Fremont Office
- PILLAR Seal Solutions Mexico S.A. de C.V.
- Nippon Pillar Packing Co.,Ltd. Alger Liaison Office

国内拠点一覧

〈工場・事業所〉

- 三田工場 (兵庫県三田市)
- 福知山事業所 (京都府福知山市)
- 九州工場 (熊本県合志市)

〈支店〉

- 東京支店
- 大阪支店
- 横浜支店
- 神戸支店
- 名古屋支店
- 広島支店
- 京都支店
- 九州支店

〈国内主要グループ会社〉

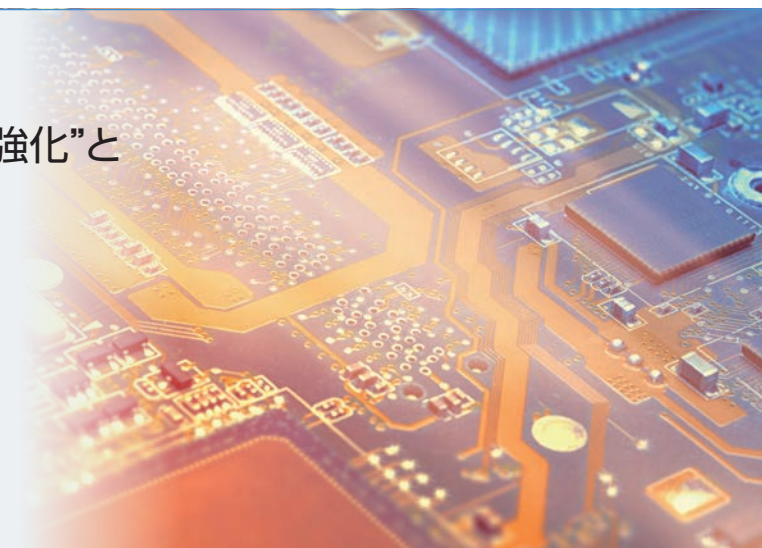
- 株式会社タンケンシールセーコウ
- 株式会社ピラーシールソリューションズ
- 株式会社ピラー精密
- 株式会社エヌパイ工業
- 株式会社エヌパイ産業
- 株式会社エヌパイ不動産
- 株式会社ピラー九州
- 株式会社増子製作所

電子機器関連事業

“海外市場における生産・販売体制の強化”と “生産能力及び生産性の向上”を推進

中国や欧米市場での市場開拓活動を進め、さらなる取引拡大を目指します。

また、2023年度より稼働した福知山事業所第2工場を核とした生産性向上により競争力を強化します。



事業概況

電子機器関連事業の主な製品は、半導体や液晶製造装置における薬液配管部材(継手・チューブ・ポンプ・バルブ)、往復動及び回転機器用のシール部品、すべり支承やスライドベアリングなどの免震装置、ミリ波などの高周波基板といった、ふっ素樹脂の特性を活かした製品群です。

2023年度は増収減益となり、売上高については4期連続で過去最高を更新することができました。

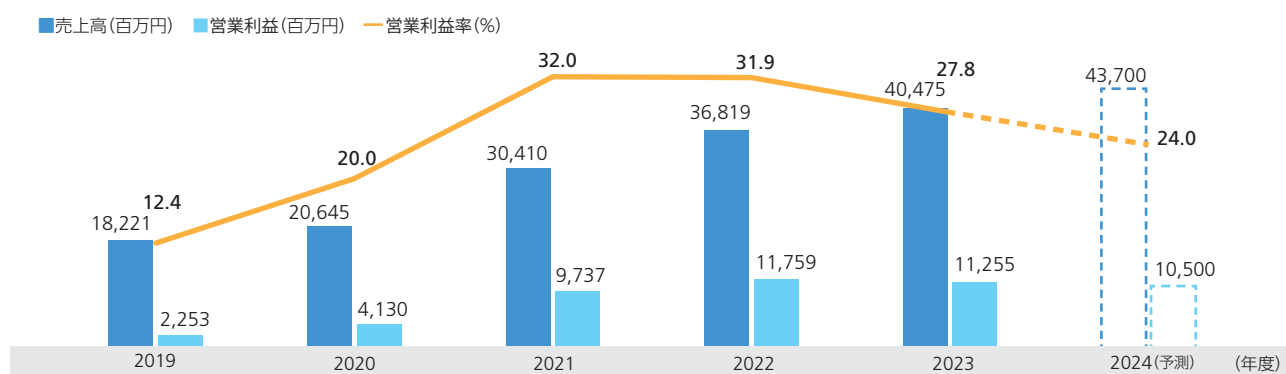
売上高は、主力の半導体向け製品の受注が減少傾向でしたが、受注残の消化によりカバーしました。また、半導体

工場や公共施設向けの免震製品の売上が伸長したことにより、セグメント全体では前期比9.9%増の40,475百万円でした。

営業利益は、原材料の価格上昇の影響が大きく、生産性の改善や適正価格での販売などを進めたものの、前期比4.3%減の11,255百万円でした。

近年課題となっている原材料の樹脂不足に対しては、再生材や代替材のさらなる活用に向けた技術的・生産技術的検証を進め、お客様と協議しながら対応しています。

● 売上高/営業利益/営業利益率の推移



中期経営計画「One2025」の進捗、課題、施策

①さらなる競争力向上に向けた基盤強化

福知山事業所第2工場竣工により生産能力が最大1.8倍に拡大する計画です。また、複数個取り金型の拡充や自動搬送設備及び自動倉庫の本格稼働によりさらな

る生産性の向上を図ります。再生材の内製化、省資源、環境負荷の低減を目的にふっ素樹脂のリサイクルに挑戦し、クリーンルーム内で高い清浄度を有する再生材の生産を目指します。

②既存市場・製品の強化

海外での生産・販売体制の強化を進めています。

中国市場においては新たな販売拠点を北京に開設して新規顧客の開拓を進め、生産ではPillar Technology (Chuzhou) Co., Ltd.の生産品目の拡充を図っています。

欧米市場においても、大手メーカーの新機種への採用など実績を伸ばしています。

③新事業の創出

市場開拓においては市場ニーズを計画的に調査しています。また、新素材開発ではふっ素樹脂の再生材や代替材の活用において成果が出ています。

新製品開発においてはスweepエルポに続く次世代製品の開発を進めています。

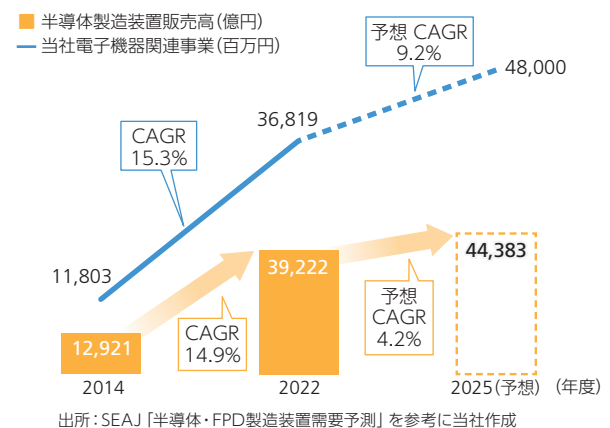
	2024年3月期の成果	今後のアクションプラン
さらなる競争力向上に向けた基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> 福知山事業所第2工場が計画通り竣工・稼働し、市場の要求に応える生産能力が向上 新たなふっ素樹脂の調達先を開拓 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体市場に応じ最大で生産能力を1.8倍まで拡大 生産の効率化・自動化推進による競争力の強化 再生材の内製化などサプライチェーンを強化し供給責任を果たす
既存市場・製品の強化	<ul style="list-style-type: none"> Pillar Technology (Chuzhou) Co., Ltd.での半導体市場向け生産品目拡大及び北京事務所の開設 欧米大手半導体装置メーカーの新型装置に標準部品として採用 半導体工場や公共施設への免震装置採用 	<ul style="list-style-type: none"> 中国市場における新規顧客の開拓 清浄度向上で差異化する商材開発 積極提案や供給体制増強による欧米市場での取引拡大
新規事業の創出	<ul style="list-style-type: none"> ふっ素樹脂基板・センサーの開発・試作 医療・医薬市場など新規市場への参入に向けた製品開発・PR 	<ul style="list-style-type: none"> ふっ素樹脂センサー製品の上市 5G基地局・データセンター向けふっ素樹脂基板の開発継続

今後の見通し(展望)

半導体の需要は、PCやスマートフォン、電気自動車などの自動車向け、通信規格の進化(5G)やデータセンターなど半導体使用機器の継続的な増加が見込まれます。また、IoTやAIといった新用途への広がりが期待できることから、市場規模はさらに成長すると予想しています。

当社の電子機器関連事業の売上高は、実績・見通しともに市場のCAGR(年平均成長率)を上回り、この傾向は今後も続くものと予想しています。市場規模の拡大と併せて、新たな顧客・用途・分野の開拓を進めることで事業規模の拡大を図ります。

●半導体製造装置市場の動向と当社主力事業の売上高推移



TOPICS

—PILLAR Shanghai Co., Ltd. Beijing Officeの開設—

2023年7月に中国国内での販売力強化を目的とした新たな販売拠点として、Shanghai Pillar Trading Co., Ltd.(現 PILLAR Shanghai Co., Ltd.)Beijing Officeを開設しました。

現場に密着した営業活動で、今後もさらに拡大が見込まれる中国市場のニーズに応えていきます。



産業機器関連事業

“カーボンニュートラル市場へのシフト”と “タンケンシールセーコウとの シナジー最大化”を推進

水素・EV・次世代電池などのカーボンニュートラル市場において、既存製品及び開発製品で参入を図ります。また、2023年度にグループ入りしたタンケンシールセーコウとのシナジー効果により競争力を強化します。



事業概況

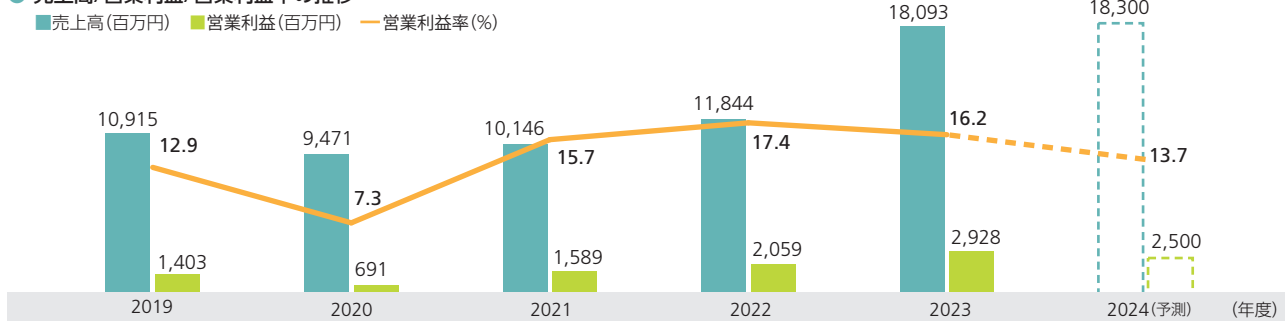
産業機器関連事業を支える主要な製品はメカニカルシール・グランドパッキン・ガスケットなどです。エネルギー・石油精製・化学・自動車・船舶・環境・上下水道設備・医療・食品などのプラントで使用される機器において、多種多様な流体を制御するシール部品としてあらゆる産業を支えています。

2023年度は増収増益かつ、売上高・営業利益ともに連続で過去最高を更新することができました。

売上高は、精密機器装置用メカニカルシールが低調だったものの、海外プラントの補修品需要、国内の原子力発電所の再稼働関連案件、石油化学市場では安全化対策設備投資などにより前期比52.8%増の18,093百万円でした。

営業利益は、2023年4月にグループ入りしたタンケンシールセーコウの予想を上回る好業績により、前期比42.2%増の2,928百万円でした。

● 売上高/営業利益/営業利益率の推移



中期経営計画「One2025」の進捗、課題、施策

①さらなる競争力向上に向けた基盤強化

生産の自動化、AI・DXを活用した開発リードタイムの短縮化などにより、各種サイクルタイムやコスト削減が着実に進んでいます。

また、タンケンシールセーコウのグループ入りにより、特に修理や予備品などのアフターサポート分野が強化されました。メンテナンススキルの向上、周辺サービス

の取り込みなどさまざまなニーズに応えることで、さらなる事業の拡大を図ります。

②既存市場・製品の強化

メカニカルシールでは、半導体市場関連に注目しています。AI等高性能チップ用途でのCMP (Chemical Mechanical Polishing) 装置用ロータリージョイントや先端パッケージング分野ではクリーン度向上を背景に新

たな機能部品のニーズが見込まれており、成長市場と捉えています。

グランドパッキンでは、欧米の規格をクリアする高いシール性能を有する製品を中心とした拡販や、性能のみならず環境対応も意識した新たな材料を採用した新製品の上市により、さらなる拡販を目指します。

③新事業の創出

2023年10月に三田工場イノベーションセンターが完

成しました。細分化した製品開発機能の集約により相互の技術の利活用を促進するとともに、産官学連携による先端技術への取り組みなどにより製品開発や研究開発のスピードアップ・強化を進めます。

PILLAR、タンケンシールセーコウ両社の技術を融合し、市場で高い競争優位性を持つ独自製品の開発に取り組んでいます。

	2024年3月期の成果	今後のアクションプラン
さらなる競争力向上に向けた基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> タンケンシールセーコウをM&Aによりグループ会社化し事業規模を拡大 技術者の英知を集結する三田工場イノベーションセンター(R&Dセンター)が竣工 生産工程の見直し他、自動化・省人化による製造コスト削減への取り組み推進 	<ul style="list-style-type: none"> クロスセル・材料一括調達などタンケンシールセーコウとのシナジー最大化を目指す AI・DXを活用した製品開発の加速化 自動化設備・システムの導入により、さらなる生産プロセス改革・効率化に邁進
既存市場・製品の強化	<ul style="list-style-type: none"> Pillar Technology (Chuzhou) Co., Ltd.での半導体市場向けロータリージョイント試作 メカニカルシール状態監視用IoTデバイスの開発 環境貢献型製品の開発・上市 	<ul style="list-style-type: none"> Pillar Technology (Chuzhou) Co., Ltd.におけるロータリージョイント生産体制構築 事業所統合などタンケンシールセーコウとの協働による営業活動強化 グローバル販売力の強化とプレゼンス向上
新規事業の創出	<ul style="list-style-type: none"> 水素・EV・次世代電池等の市場調査と開発推進 三田工場イノベーションセンター活用による、脱炭素社会に向けたシール技術の向上 新たな保守・メンテナンス契約サービスを開始し顧客を囲い込み 	<ul style="list-style-type: none"> 液体水素環境下での試験装置導入による水素市場向け製品の開発加速 SAF*など新たな市場参入に向けた販売促進強化 電子機器関連事業で培った射出成形技術を活用したEV向け部品の開発・上市

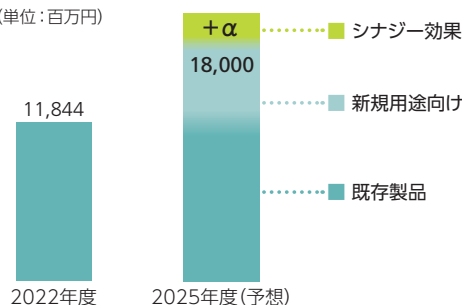
*SAF=Sustainable Aviation Fuel(持続可能な航空燃料)

今後の見通し(展望)

脱炭素の取り組みでは、航空燃料のSAFや発電所でのアンモニア混焼など既存インフラを流用しつつ環境負荷を低減する商用ベースでの設備投資が本格的に進んできました。一方で水素を中心とした利活用や次世代電池開発の取り組みも実証ベースでの投資が進展しており、産業機器関連事業の成長領域として引き続き注力していきます。

● 売上構成成長イメージ

(単位:百万円)



TOPICS

—新市場・新用途への採用実績—

持続可能な燃料として注目されているSAF燃料の海外プロジェクトに当社のメカニカルシールが採用されました。当社のメカニカルシールは国内ポンプメーカーのポンプに組み込まれており、2024年末に商用稼働を開始する予定です。さらに、当案件を皮切りに当社は国内外の5つのプロジェクトで営業活動を継続中です。

また新用途となる先端半導体市場において、パッケージ材料の製造プラントに当社のメカニカルシールが採用されました。AI向けを中心とした先端半導体分野では積層やチップレットなど後工程の技術革新が急速に進む中、当社は半導体材料の大手企業向けに国内機器メーカーを経由して、2024年3月にメカニカルシールを納入いたしました。

ISO認証・IATF認証

当社ではクオリティファーストの姿勢のもと、ISO9001認証及びIATF認証を取得しています。

ISO認証

国際的な品質マネジメントシステムとして、ISO9001を国内シールメーカーで最初に取得しました(1995年)。現在の認証機関は一般財団法人 日本品質保証機構、認定機関はJAB(日本)及びUKAS(イギリス)です(本社、三田工場及び福知山事業所はISO9001の認証を取得しています)。



IATF認証

以下の事業所で生産する車載用途製品に対し、自動車産業の国際的な品質マネジメントシステム規格であるIATF16949の認証を取得しました(2019年)。IATF16949は、欧米の自動車メーカーと自動車産業関連団体が、不具合の予防、サプライチェーンにおけるばらつき及び無駄の削減、継続的改善をもたらすために、部品メーカーに対して要求事項を規格化したもので、ISO9001をベースに、多数の固有要求事項が盛り込まれた品質マネジメントシステムです。



登録事業所：株式会社PILLAR 三田工場
 認証範囲：ガスケット/パッキン/排気系成形品/ぶっ素樹脂基板の設計、製造

石綿(アスベスト)不使用について

当社の製品は、石綿(アスベスト)を使用しておりません。

ESG関連の外部評価

当社は外部のESG評価機関から評価を受け、ESGインデックスの構成銘柄に選定されています。



CDPスコア「B」獲得

2023年度もCDP質問書を通じた情報開示を行い、「B」スコア(気候変動)の評価を受けました。



プランケット賞受賞

ピラフロン製品であるスーパーフィッティングが世界的に評価され、デュポン社のプランケット賞を3度受賞しています。



海外展示会への参加



バルブワールド
 バルブ製品・技術が一堂に集まる世界的な見本市「バルブワールド」に出展しています。

SEMICON

世界的な半導体関連業界総合展示会。業界に製品をアピールするとともに、最新の情報を収集しています。



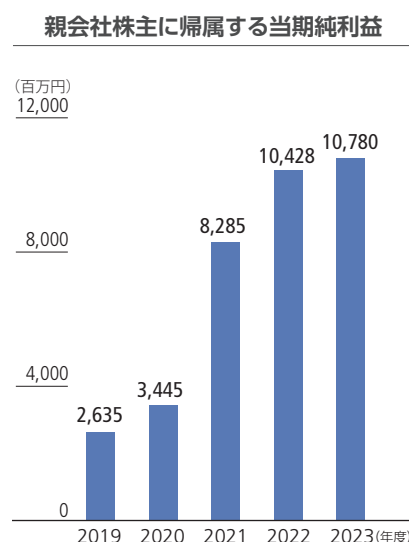
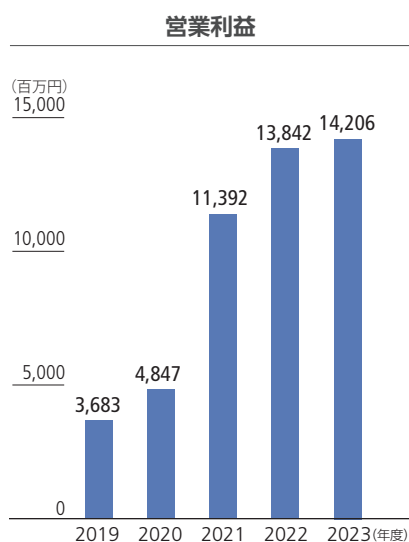
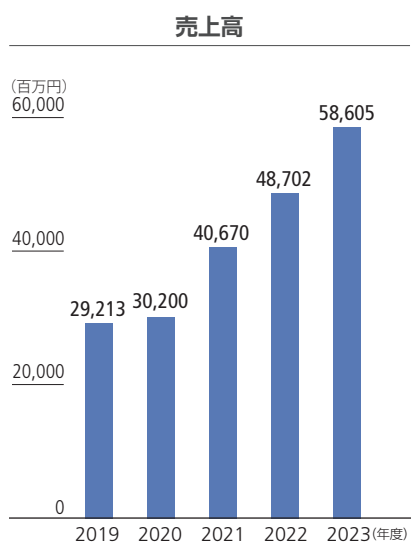
会社概要 (2024年7月1日現在)

社 名 株式会社PILLAR(PILLAR Corporation)
 本 社 所 在 地 〒550-0013 大阪市西区新町1丁目7番1号
 創 業 1924年(大正13年)
 代 表 者 代表取締役社長 岩波 嘉信
 資 本 金 49億66百万円
 上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場
 従 業 員 数 1,132人(連結 2024年3月31日現在)
 主要生産品目 ピラフロン製品(ふっ素樹脂製品)、メカニカルシール製品、グランドパッキン・ガスケット製品
 ホームページ <https://www.pillar.co.jp/>

数字でわかるPILLAR



業績の推移





株式会社 PILLAR